



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



中野小学校における出前授業の様子



2011・国際森林年

指導普及課と北信署が合同で

児童と保護者に「出前授業」を実施

(P4~5に関連記事)

主な項目	○ 「長野市環境子どもサミット」に環境体験コーナーを出展	P3
	○ ラジオ番組で国有林をPR	P3
	○ 風景紀行「有明山」	P8

平成二十二年 度

第二回署長等会議を開催

「企画調整室」十一月十七日(水)～十八日(木)、森林管理局において署長等会議が開催されました。

会議においては、十月三十日に行われた行政刷新会議における特別会計の事業仕分け等を受け、十一月五日に開催された局長会議等を踏まえ、今後の事業運営等について会議が行われた。

全体会議では、城土局長及び竹林次長から

- ① 国有林野事業特別会計の事業仕分け、② 森林・林業再生プラン、③ 生物多様性の保全への取組推進、④ 国際森林年、⑤ 収入の確保及び適切な予算執行、⑥ 森林整備事業の適切な実施と予算の着実な執行、⑦ 法令等に基づく各種手続きの確実な履行、⑧ 綱紀の肅正等について訓辞が行われた。

会議の中では、事業仕分けにおいて、「負債返済部分とその他の部分について人件費の帰属等を含め早急に検討していただき国民の負担が決して増えない形での切り分けを前提として、特別会計を一般会計化する。」との取りまとめがされ、一般会計化に向けて具体的な検討がされる中において、より国民から評価され、信頼される国有林野事業であることが求められる重要な時期となること、森林・

林業再生プランの最終報告が予定され、プランの着実な実行が求められることになることから、局署一体となつて適切な業務運営に努めるよう各種指示が行われました。



署長等会議で訓示する城土局長

平成二十二年 度

国有林モニター会議の開催

「企画調整室」十二月七日(火)、東濃森林管理署(岐阜県中津川市)において、「平成二十二年中部森林管理局国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニター会議とは、幅広い国民の皆さまの声をお聴きし、開かれた「国

民の森林」にふさわしい国有林野の管理・経営を推進するため、平成十六年度から進めている取り組みです。

会議には、全三十名のうち管内一円からお集まりいただいた十一名のモニターの皆さまと、当局から計画部長、森林整備部長、東濃森林管理署長等が出席しました。

午前中は、東濃森林管理署長より署の概要説明のあと、二十年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮に必要な材を供給する木曾ヒノキ備林の視察を行いました。モニターの方からは、「通常では見られない備林を見学できて感激しました。」などの感想をいただきました。

午後は場所を「東濃森林管理署会議室」へ移し、中部森林管理局の事業概要等の



木曾ヒノキ備林での記念撮影



会議室に場所を移して意見交換

説明、事前に聴取したモニターの皆さまからのご意見やご質問にお答えした後、意見交換を行いました。

モニターの皆さまからは、「今日のよう な現場を見ながらの説明を、モニターとなった後すぐに行つてほしかった。」「森林に関心のない都会の者に、もっと関心を持たせる工夫がほしい。」「国産材を使いたかったが、価格等の制約から外材を使った。」など貴重なご意見をいただきました。

今回の会議でいただいた意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えています。

「長野市環境子どもサミット」 に環境体験コーナーを出展

「指導普及課」十一月十三日(土)、「第十五回 長野市環境子どもサミット」が長野市生涯学習センターで開催されました。サミットを通じて、子供たちに環境活動への関心と意欲をさらに高めていただくとともに、より多くの市民の皆さんが、身近な環境や地球環境に関心を向け、具体的な行動を起こす機会となることを目的としたもので、当局からは環境について楽しみながら体験し学習する「環境体験コーナー」に、国土防災技術株式会社と協同で「ドパスアートに挑戦(地球のカケラで絵を描こう)」を出展しました。



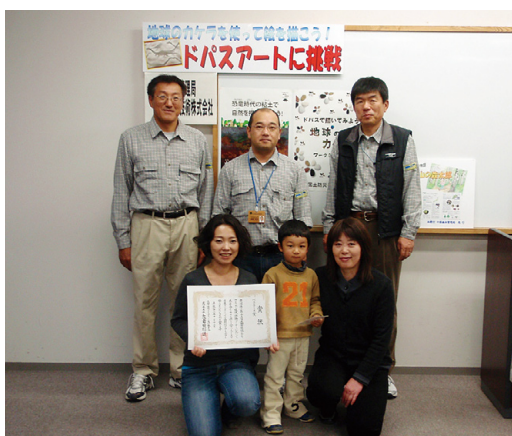
中部局の環境体験コーナー

中心となつて開催され、中部局も毎年「環境体験コーナー」に参加しており、今年も信州大学のほか、多くの団体・企業等が「環境体験コーナー」に出展、参加しました。

会場には、市内の小学校等の子どもエコクラブの子供たちや、家族・親子連れを中心とした多くの市民が訪れ、中部局出展の「ドパスアート」にも、「本来であれば廃棄物となつてしまう土や粘土を再利用して作ったパステルを使って絵を描く」という、珍しい環境体験ができることもあり、小さな画家たちがドパスで指を真黒にしながら、素晴らしい絵を描いていました。

今年のサミットから、来場者の投票に

より、一番好評であった「環境体験コーナー」に贈られる「ベストブース賞」が創設され、第一回の「ベストブース賞」に、中部局・国土防災技術株式会社協同出展の「ドパスアートに挑戦(地球のカケラで絵を描こう)」が選ばれました。



第一回ベストブース賞に選ばれ記念撮影

SS、高山植物等保護連絡協議会等の活動に加え、局HP等による情報提供も行ってきました。一般国民の認知度はまだ低い状況にあります。特に、昨年五月に貴重な高山植生等を消失させた白馬岳の山火事は、山岳スキーヤー等の火の不始末が原因と推定されており、普及啓発の必要性が益々高まっています。

このような実態を踏まえ、当局としては、様々な機会を通じマスコミ関係者に対して普及啓発を要請してきたところですが、今般、SBCラジオを活用した国有林PRをアクションプログラムの一環として位置づけ行うこととしました。

ラジオ放送は、主婦・農作業時・工場・商工関係・自動車内等において数多く聴かれ、特に長野県内では山岳に関心のあるリスナーも多く、国有林のPRの場としての活用に適しています。

放送は、SBCラジオの「YOUスタ深志3丁目」の番組で、十月二十九日の第一回から毎月月末の金曜日に一回ずつ全六回を予定しています。

放送内容は、「森林教えて」との企画で、中信署の職員等が山本アナウンサーと掛け合いで国有林の様々な活動や森林・林業・自然、高山植物の保護及び登山マナー、獣害や外来種、治山等でPRを行います。

業務の合間に中信署職員と山本アナウンサーの掛け合いを楽しんでください。

もりりん 森林教えて〜 ラジオ番組を活用した 国有林PRを実施

「中信署」当局が管轄する中信地区の国有林は、槍・穂高連峰や白馬岳等の山岳、上高地、乗鞍、美ヶ原等の景勝地を抱え、全国各地や海外から多数の者が訪れる我が国トップクラスの登山・山岳観光の地であり、このため、高山植物等の貴重な自然の保護や登山・入山マナー等の啓発の必要性は高く、従来からGP、G



第 1 回の放送で出演した下平署長と山本広子アナ

■放送スケジュール

- 第一回 十月二十九日(金) 当署署長が出演し、国有林や森林管理署の業務、山岳地帯の管理などについて話をしました。
- 第二回 十一月二十六日(金) 当署業務課長が出演。「増えすぎたシカの住処が広がった」
- 第三回 十二月二十四日(金) 当署業務課長と他署員が出演予定。「間伐は山を守るために必要」
- 第四回 一月二十八日(金) 当署員と他署員が出演予定。「外来植物の除去も大切な仕事」
- 第五回 二月二十五日(金) 当署員と他署員が出演予定。「人にやさしい木材」

第六回 三月十八日(金) 当署員と他署員が出演予定。「住居を守る治山工事」

各地からのたより

上市町議会議員が

国有林の治山事業地を視察

「富山署 十一月十日(水)、上市町議会(産業厚生常任委員会)が早月国有林において治山事業の視察を行いました。

上市町を流れる全国屈指の急流河川「早月川」は、剣岳登山口の馬場島までが特に急峻で、土砂災害の起きやすい地形であり、山腹崩壊地や溪岸浸食が多数存在しています。このため、当署では下流域住民の安心・安全のために、森林の



ジオラマを使用しての説明を聞く議員の皆さん



雪の中、白萩川(山腹工)を視察する議員の皆さん

持つ公益的機能を十分發揮させ、防災機能を維持増進させるための治山事業を計画的に実行してきています。

当視察については、同町議会からの、「町内の奥地で行われている国有林の治山事業は、下流にとって大事と聞いているが、一般に見ることができないのでぜひに」との要望から実施したもので、同会委員長始め総勢十三名が参加しました。

午前には町発注の道路工事等を視察した後、午後に馬場島荘において同荘に設置してあるジオラマを使用して当署の概要と上市町内の治山事業について説明しました。

その後、ミニバス等に分乗し、白萩川の施行地に出発しました。白萩川の

現地では、あいにく雨から雪への天気となりましたが、本年度完成した山腹工と床固工を視察し、次に、小又川の施工現地に移動し、これまでの長年にわたる治山事業の実施状況と今後の計画等を説明しました。

議員の皆様からは、「実際に町奥地の治山事業を直接見ることができ、これほどの工事をしてに驚いた。」「地域住民のために国有林が治山事業を実行していただきありがたい。」「町としても今後も協力していくのでよろしくお願ひしたい。」などの意見があり、治山事業への理解を深めていただけようです。

北信地域の小学生を対象に

「出前授業」を開催

「指導普及課・北信署」

十一月十八日(木)、中野市内の中野小学校において、三年生の二クラスの児童・保護者、総勢約百三十名(児童六十五名)の皆さんを対象に、指導普及課及び北信森林管理署共同による「出前授業」(森林教室)を開催しました。

今回の「出前授業」は、三年生から四年生への進級に伴い、クラス替えとなるため、現クラスのみんなの思い出として、「記念になるものを、ぬくもりのある木を使って作りたい。」という児童の皆さんの希望と、「ノコギリの使い方等の学習や間伐材を使つてのクラフト作り等を通じ、木とのふれあいや自然の大切さを感じ